

軟X線向け高輝度 3 GeV級放射光源に関する運営経費の試算

資料2-2
科学技術・学術審議会 研究計画・評価分科会
量子科学技術委員会
量子ビーム利用推進小委員会(第14回)
平成30年1月18日

量子科学技術研究開発機構

【試算条件】

- ビームラインの整備について、以下の2通りに分けて試算した。
 - ・国が3本整備+パートナー機関が7本整備 計10本
 - ・国が5本整備+パートナー機関が5本整備 計10本
- 国が整備するビームラインについては、国が100%共用枠として利用する。
- パートナー機関が整備するビームラインについては、例えば、
 - ・国が共用枠として利用するビームタイムの割合は全体の50%、
 - ・パートナー機関が利用するビームタイムの割合は全体の50%と仮定する。
- パートナー機関が国（整備主体）に支払う施設の利用料は、パートナー機関と国（整備主体）との間で成果専有利用の割合をあらかじめ協議して決定する。

※国際的なガイドラインにおいて、大型研究施設の利用については原則無料とされており、成果非公開での利用のみ有料としている。

【運営経費の内訳（推計）】

- 加速器（ライナック・蓄積リング）維持管理費：約19億円/年
 - ・運転経費（人件費含む）：約14億円/年
 - ・光熱水費：約5億円/年
- ビームライン維持管理費（10本分）：約5億円/年
 - ・人件費：約1億円/年
 - ・保守管理費：約4億円/年
- ビームライン利用支援：約3億円/年
 - ・利用者選定・支援業務費（人件費含む）：約3億円/年
- その他
 - ・事務運営管理費等：約2億円/年

計 約29億円/年

【試算結果】 ※パートナー機関の成果専有利用の割合を変動させて試算

（パートナー機関の成果専有利用の割合を30%～70%とした場合）

- 国が3本、パートナー機関が7本、ビームラインを整備する場合
 - ・国の負担額： 約 22 ～ 24億円
 - ・パートナー機関の負担額： 約 5 ～ 7億円
- 国が5本、パートナー機関が5本、ビームラインを整備する場合
 - ・国の負担額： 約24 ～ 25億円
 - ・パートナー機関の負担額： 3 ～ 5億円

